



臥牛山の麓にある御根小屋跡(現高梁高校)
藩主の居館や政庁があった

藩主就任以来、江戸藩邸にいた勝静が6月、新藩主として松山入りをしました。領民は祝いとして米千俵を差し出しました。勝静は民のことを考えて辞退しましたが、このことは先例なので強く要望され、これを受け入れ、代わりに農村に蓄えさせて、不作の年に備えさせました。財政の健全化に向けての第一歩として、勝静は藩士全員に対して藩の厳しい財政状況を説明し、方谷が提案

した節約令を出しています。その内容は期限を定めて藩士の給与を減らし、衣服は絹を禁止して綿織物のみ、くしなどは木・竹に限り、足袋をはくのは10月節句から翌年の4月まで、飲食は一汁一菜、結髪・家政は人手を借りないなど厳しくせいたくを戒め、さらに奉行・代官などへのもらい物はすべて役所に持ち出し、入札で希望者が買うこと、各村を見回って歩く役人へは酒一滴も出してはならないことが明記されています。

方谷は自身の給与を一部返上し、山田家の家計一切を近所の塩田仁兵衛に任せています。後年発見された、当時の家計簿の裏に書かれた方谷の詩に、『藩の財政立てなおしに苦心すること10年、その間少しも我が身のためにしなかつた。貯蔵の藩米は倉の中に積みあげられており、財政はゆとりあるものとなった。それに引きかえ、わが家八人の生計はあべこべに窮屈になってきたのは皮肉である。このたび、荒れ地を開墾して、やっ

(文・児玉亨さん)

財政改革に入る

松山藩の領主は若い婿養子の板倉勝静、元締役兼吟味役は農民出身で学者の方谷といふことは、藩士たちに反感と不安を感じさせたことは当然なことです。しかし、勝静は財政の健全化を行う強い意志で臨み、方谷への批判は一切許さず、彼の考え通りに実行させました。方谷自身は財政改革についての自分の考えを文章にまとめて報告し、藩の重臣たちと時間をかけて協議し、理解を得て断行しました。

山田方谷を語る 七

方谷は嘉永3(1850)年1月に松山に帰ると、直ちに藩の会計など財政に必要な資料を徹底的に調べ上げました。松山五万石の実収入は米一万九千三百石余りです。これから家臣の給与五千石余り、領民への渡し米千石余りを差し引くと、米一万三千石(金貨に換算すると約一万九千兩余)でその中から藩庁経費三千兩、大坂・京都の費用千兩余り、江戸経費一万四千兩を支出しています。これで収支はほぼ同一になります。借金総額十萬兩(時価数百億円)あり、その利息だけでも八、九千兩あるの

で、これだけが赤字になります。これでは借金の利息支払いのために又借金するという状態で、参勤交代の道中で駕籠かきが「貧乏板倉」と陰口していたということです。

方谷は10月、質素な綿服で大坂に向き、債権者の商人たちに集まってもらい、藩の帳簿を示して実状を正直に話しました。五万石ではあるが実収は二万石しかないが、財政改革によって、返済に必要な財源の確保が可能であり、借りの金は将来誠意をもって返すから、返済をしばらく待って、10年、50年の年賦にしてもらいたいと要望しました。厳しい反対もありましたが、方谷のうそのない誠実な説明に好意がもたれ、了承されました。今後は富商の加島屋からだけ借りて、他からは借りないことにしました。



「山田方谷像」柴倉浅太郎作(1913)

“2014オープンキャンパス開催”

～希望の学科を1日で体験できる絶好のチャンス～

2014年度の吉備国際大学、順正高等看護福祉専門学校のオープンキャンパスに参加してみませんか？

受験生にとっては、将来を決める大事な選択をせまられるこの時期、自ら参加して学生生活の一端を体験してみてください。

また、受験生だけでなく、高校1、2年生や社会人の進学希望者はもちろんのこと、保護者の方もぜひ一緒に参加してみてください。教職員一同、皆さんの参加を心よりお待ちしております。

オープンキャンパス

開催日時
7月20日(日)、8月23日(土)、9月27日(土)
大学：午後1時～午後4時
専門学校：午前11時30分～午後4時

キャンパスツアー、学科紹介、ミニ講義、入試相談、AO面談、在学生コーナー、学食無料体験、保護者相談コーナーなどを実施。
その他、備中高梁駅から無料送迎バスを臨時運行

ミニオープンキャンパス

開催日時 ※参加申し込みが必要です

11月16日(日)、12月20日(土)、
平成27年2月15日(日)
午後1時30分～午後3時30分

当日は学科紹介、入試相談、AO面談などを実施
※平成27年2月15日(日)は、大学のみ開催
※入試広報室へお電話にて参加をお申込みください。

高梁キャンパスでの開催学部は、社会科学部・保健医療福祉学部・心理学部・アニメーション文化学部および順正高等看護福祉専門学校です。吉備国際大学地域創成農学部は「南あわじ志知キャンパス」での開催、同じく外国語学部は「岡山キャンパス」での開催です。

■問い合わせ 順正学園 入試広報室 ☎0120-25-9944

成羽病院通信

■問い合わせ ☎423111

熱中症に気をつけましょう！

大量の汗をかくと血液中の水分がなくなって脱水状態になり、さらには熱中症になることがあります。

- **熱中症になりやすい人**
高齢者・乳幼児・肥満の人・病気や体調の悪い人・暑さになれていない人・水分が十分にとれない人など
- **熱中症の症状**
Ⅰ度：めまい、失神、こむら返り、手足のしびれ
Ⅱ度：頭痛、吐き気、おう吐、倦怠感、虚脱感
Ⅲ度：意識障害、けいれん、手足の運動障害、高体温
- **熱中症の疑いのあるとき**
 - ①涼しい環境への避難…風通しのよい日かげ、できればクーラーの効いている室内へ
 - ②衣服を脱がせる…水をかけたり、氷や氷のうなどを使ってできるだけ早く体温を下げる。(体温の冷却) ※首・脇の下、大腿の付け根を冷やすと効果的です。
 - ③水分・塩分の補給…冷たい水を飲ませる。大量の発汗があったときには塩分も多量に失われるので、塩分も同時に補充することが大切。スポーツドリンク、うすい食塩水(水1ℓに塩1～2gくらいの濃度)や経口補水液を飲ませる。
 - ④医療機関へ運ぶ…自力で水分摂取ができないときや、上記の熱中症の症状が見られる場合は、医療機関に搬送する。(その際も体の冷却は続ける)
- **水分補給のポイント**
 - 運動の30分前までにコップ1～2杯の水を！
 - 運動中は15～30分おきにコップ1杯程度を！
 - 入浴前後・起床時に水分補給を

※のどがかわいていなくても、こまめに水分補給をしましょう！